

来て見て永平寺町

# 観光ボランティアニュース

永平寺町観光ボランティアガイドの会 広報紙 第3号

平成27年3月20日 発行

<発行元>

永平寺町観光ボランティアガイドの会  
(永平寺町役場商工観光課内)

永平寺町松岡春日1-4 (TEL 61-3921)

## 神社仏閣紹介

### 松岡 式内柴神社 (春日大明神)

#### 「まつり」

昔から神様に会い今日の生活の無事と五穀豊穡と無病息災をお願いする場所であり人生の心のよりどころとする祈願所である。

私が春日祭りにめざめたのは父親の影響で、実家の前の亡き吉川高松さんと父が全体を竹で作った子供神輿を立派に作ったのである。戦後と地震と水害に遭い荒れた町に活気を取り戻した町内に神輿がくりだしたのである。子供の成長を願う親の心を私は見たのである。昭和26年の頃、中学1年生の春であった。

#### 柴神社略由来

九頭竜川が福井平野に流れ出る頂部左岸の地で、三国々造の奥津城にあたる芝原と呼ばれる一円の鎮守社として崇拝され、天文年間に京都の占部より中務が来て初代神官となっている。

社地は現在の松岡町の中央に位置する丘陵にあったが、福井藩の分藩が定まり館の建設が慶安三年に行われた時現地に移転される。

社殿については、古くは加賀・越前一向一揆で焼失、近年は昭和二十三年の福井地震で倒壊したのを再建している。

明治期には別当職を廃し、七十六ヵ村の郷社となっている。なお、旧社地は松岡古墳群の祭祀場であったと考察される。

(柴神社 リーフレットより抜粋)



柴神社境内

## 光を観る

トルコへ行ってきました。親日的な国で楽しい旅でした。明治期から続く友好関係の歴史を小学校で教えているそうです。素晴らしい話です。

自給自足の農業国で工業製品はほとんど輸入しているようです。ガソリンは2倍、車は日本の4倍するそうです。外貨を稼ぐ手立てとして観光に力をいれています。

移動のバスはドイツ製のV I P車で、車体には日本の旅行社のマークが描かれています。

バスの燃料、運転手の賃金等、観光関係には多額の補助金が出ているようです。

最後にある露店での会話のコマ。

- (日本人)「ギュナイドン」  
(トルコ人)「おはようございます。」  
(日本人)「これいくら」  
(トルコ人)「オ・モ・テ・ナ・シ。」  
(日本人)「まけてよ」  
(トルコ人)「だめよ、ダメダメえ」



スルタンアフメト



カッパドキア

あまりにたのしくて、つい買っちゃいました。  
この旅行の最高の (おもてなし) でした。

観光ボランティアガイドの会会員募集中！ 町内の歴史について勉強しませんか？ お問合せは事務局まで



## 歴史ノート

### 火薬局跡の石碑

現在は柵地区にあります。この碑は当時の福井藩が芝原用水の水車を利用して鉄砲、大砲、火薬を製造する火薬製造所を設け、「火薬局」と名付けたものです。

当時、アメリカと和親条約を結んだことから国論が沸き上がり、幕府の命令により各藩が武器、火薬製造を行った時に設立されました。

ところが、安政4年（1875年）4月27日自然爆発して6名の死傷者を出し翌年5月5日にも再度、自然爆発し、製造を中止しました。

この石碑は安政6年（1859年）その殉職を悼んで建立されたものです。



火薬局跡地

## 歴史ノート

### まめだのお地藏さん

御陵小学校の北側、九頭竜川裏川の南側、御公領の地がかりの“まめだ”の畑地にお地藏さんがありました。安置したのは下合月森塚喜平氏と伝えられていますがその由来は定かではありません。昭和46～48年の土地改良の折、奥野正人さん地がかりの農道敷きに移設されましたが、この辺りは宅地化される見通しとなり、昭和59年3月20日兼定島墓地の共有地にお迎え安置しています。



まめだのお地藏さん

## 観光ボランティアガイドの会 平成26年度のあゆみ

### 平成26年度活動

- 5月 ツアー 291「美人祈願と美酒、美食の旅ツアー」をアテンド
- 6月 県外先進地視察研修事業 石川県白山市鶴来地区 参加者10名
- 7月 「ふるさと探訪」撮影 志比堺地区 9月～こしのくにケーブルテレビにて放映
- 8月 観光ボランニュース 創刊 町内全戸配布
- 11月 現地研修会 上志比地区 参加者26名
- 11月 ボランティアガイド北陸大会in金沢市 参加者256名  
(うち5名 永平寺町より参加)
- 12月 観光ボランニュース 第2号発行 町内全戸配布
- 3月 ガイド研修会（講師：福井県観光連盟より招聘）

※毎月 勉強会を開催。

※依頼の多い門前地区を中心として、ガイド活動を実施。



吉峰寺にて研修会を開催

## 編集後記

ここ数年で、大本山永平寺の年間参拝者数は50万人を割り、誘客事業に力を入れているにも関わらず観光客増にはいたっていません。観光は点ではなく、線でつなぐものだ聞いたことがあります。北陸新幹線開業のチャンスに、福井県全体で協力して誘客していかなければなりません。

点を線にするため、まず町内の方に地元の観光資源に興味をもっていただくことを目標に、少しずつ発信していきたいと思います。

ガイドの皆さんのパワーを誘客の一助にしたいと思う日々です。興味や関心のある方はなんでもお問い合わせください。